

第103期

中間報告書

2023年4月1日 > 2023年9月30日

証券コード: 2204

株式会社 中 村屋



経営理念

真の価値を追求し、 その喜びを分かち合う

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご支援を賜り、 厚くお礼申し上げます。

ここに株式会社中村屋第103期第2四半期(2023年4月1日から 2023年9月30日まで)における事業の概要をご報告申し上げます。







代表取締役兼社長執行役員

鈴木 達也

島田松之

■ 経営環境と成果の報告 ■

当第2四半期における菓子・食品業界は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により人流が回復し、個人消費に持ち直しの動きが見られました。一方で、原材料・エネルギー価格などが高騰する中、多くの企業が商品の値上げを余儀なくされ、物価上昇に伴う消費マインドの冷え込みが懸念されるなど、先行き不透明な状況が続きました。

当社におきましては、2年目を迎えた「2022年-2024年 中期経営計画」のもと、3つの年度指針「総花思考の打開」「部分最適の打開」「前例踏襲の打開」を新たに定め、課題解決に取り組みました。

具体的には、原材料・エネルギー価格など、想定を上回るコストアップに対処するため、商品アイテムの絞り込みや規格の見直しによる効率化を図り、必要に応じた価格改定を行いました。また、おいしさの土台となる生産ラインでは、機械化・省人化を推進すべく、環境整備に努めました。そして売上拡大に向けた中心的な施策として、中華まんの春夏向けのキャンペーンや販促活動を積極的に行い「夏の中華まん」として認知度を上げるべく、その拡販に全社で取り組みました。さらに、目標達成に向けた迅速な判断が可能となるよう、目標管理マネジメントの徹底と、社内システムの整備などを進めました。

以上のような営業活動の結果、当第2四半期売上高は12,715百万円前年同期に対し554百万円、4.6%の増収となりました。

利益面では、売上増収から、営業損失は2,256百万円 前年同期に対し88百万円の改善、経常損失は2,180百万円 前年同期に対し57百万円の改善、四半期純損失は、環境対策費90百万円を計上したことで、1,584百万円 前年同期に対し39百万円の減益となりました。

一 今後の課題と戦略 =

企業を取り巻く環境は、社会経済活動の回復を受け、一部では明るい兆しも見え始めていますが、原材料・エネルギー価格の高騰や、人手不足に伴う人件費・物流コストの上昇など企業収益を圧迫するマイナス要素に加えて、将来への不安による消費者の節約志向の高まりなど、対応すべき問題が山積しています。

こうした厳しい経営環境において、当社は理念体系に掲げたビジョン「中村屋は、創意工夫と挑戦で、これからのくらしに溶け込む、喜んでもらえる食を提案する」の実現に向けた取組みを着実に実行することで、課題解決を図っていきます。今後を見据えた対応として、営業、企画・開発、生産、物流、販売に至るまでのバリューチェーンの再構築と顧客接点の強化、当社の有するコア技術のさらなる磨き上げ、そして人財マネジメントを通じた従業員の育成とエンゲージメントの向上などを進め、揺るぎない企業基盤の確立に努めます。

そして、これまで積み上げてきたノウハウや組織能力を活かし、全国のお客様に「中村屋ブランド」として当社独自の価値を提供するとともに、創意工夫や挑戦を通じ、あらたな食を創り上げ、喜びと感動をお届けします。

あわせて、サステナビリティに係る重要課題として、環境・人財・品質 安全を軸とした各マテリアリティに取り組むことで、企業活動を通じた 環境・社会課題の解決および持続可能な社会の実現、さらには当社の 持続的な成長・発展へと結びつけ、経営理念「真の価値を追求し、その 喜びを分かち合う」の具現化を図ります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご理解とご支援を賜 りますよう、宜しくお願い申し上げます。 ♥ 業績ハイライト ***.* ♥ *.*** ♥ ***.* ♥ ***.* ♥ ***.*

当第2四半期のポイント

売上増収し経常損失改善も、特別損失(環境対策費) 計上で当期純損失増加となる。



(注)第101期より「収益認識に関する会計基準」を適用しており、第100期についても遡及修正しております。





菓子事業

売上高構成比 61.3%

売上高 7.794百万円[前年同期比3.4%增]

贈答菓子類では、手軽に利用できるギフトの強化のため、主 力商品 「うすあわせ」 「月の菓」 「なめらかクリーム チーズケーキ」 「とろける濃厚ガトーショコラ」の品質・パッケージの改良を行い ました。また、米菓「おこのみあられ 花ごよみ」を新発売し品 揃えを充実させました。夏のデザート類では主力商品の品質・ パッケージ改良を行うとともに、新商品「ひとくちゼリー」を発 売してギフト需要の変化にも対応しました。

その他、日常使いの菓子類では「ご褒美喫茶」シリーズの品 揃えを充実させ、加えて「どら焼」の拡販に努めました。また、 独自のパイ製造技術を生かした新商品「幸せのサクサクパイ」 を発売し、トースターで温めて焼きたてのおいしさを味わうとい う楽しみ方を提案しました。

中華まんじゅう類では、量販店販路を中心に、電子レンジで そのまま温められる個包装タイプの「肉まん」「あんまん」を、その簡便性を 生かして朝食用途への訴求を行い、通年販売に向けた取組みを強化しまし



中華まん



では基本商品である「肉まん」「ピザまん」「ごまあんまん」「大入り 豚まん」の改良発売を行いました。

サクサクパイ

新宿中村屋ビル地下1階「スイーツ&デリカBonnal では人流が 回復する中、ギフト向けの菓子やカレー (レトルト・缶詰)などの販売 を強化し増収となりました。また、新たな取組みとして、ふるさと納 税の返礼品協力事業者として参入し、売上げに寄与しました。

店舗展開では、東京駅や高速道路サービスエリアなどにおいて、 [キャラメルマンデー] [新宿カリーあられ] の催事出店や納品販売な どを展開し、お土産需要に応え、売上げを拡大することができました。



食品事業

売上高構成比 36.0%

売上高 4.578百万円(前年同期比4.5%増)

市販食品では、「より簡便でよりおいしく」という消費者ニー ズに合わせた商品開発を積極的に行いました。

レトルト食品の「インドカリー」シリーズでは、昨年度、電







インドカリーシリーズ

子レンジ調理可能にリニューアルし好評をいただいたことを受け、同シリーズの「ベジタブル」「濃厚ビーフ」、さら に洋食シリーズの「ビーフハヤシ」「クリームシチュー」も電子レンジ調理タイプにリニューアルし品揃えを充実させ るとともに、スパイスの見直しなどの品質改良を加え拡販を図りました。また、本格四川シリーズの「麻婆豆腐」を 改良し、香りとコクを引き立たせることでおいしさを訴求し拡販に努めました。

業務用食品では、中食販路においてコンビニエンスストア向けカレーの拡販を図りました。外食販路においては、カ フェチェーンに対して、当社の調理技術の高さを生かしたメニュー開発や、きめ細かい提案をしました。また、当社製



オリーブハウス浦和店

造のレトルトカレーがテレビ番組で取り上げられた際には需要拡大に積極的に 対応するなど、各種の取組みを通じ商品の採用を増やし拡販を推進しました。

新宿中村屋ビル直営店舗「カジュアルダイニングĠránná」「レストラン& カフェManna」では、お客様が多くご来店され、「純印度式カリー」を中心 に好評をいただきました。直営レストラン「オリーブハウス」では、季節メ ニューを販売し売上げを大きく伸ばしました。また、

オリーブハウス浦和店を6月に店舗リニューアルしま した。

不動產賃貸事業

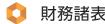
売上高構成比 2.7%

売上高 343百万円(前年同期比41.3%增)

不動産賃貸事業では、商業ビル「新宿中村屋ビル」において快適で賑わいのあ る商業空間の提供に努め、満室稼働を維持しました。また、保有土地の有効活用と して、昨年武蔵丁場敷地(埼玉県入間市)の一部遊休部分を事業用定期借地権設定 契約を締結したほか、本年8月には旧東京事業所(渋谷区笹塚)の再開発に伴う一 般定期借地権設定契約を締結し、地代収入がありました。



新宿中村屋ビル





四半期貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2023年9月30日現在)	前第2四半期 (2022年9月30日現在)	前期 (2023年3月31日現在)		
資産の部					
流動資産	12,210	9,360	9,567		
固定資産	33,614	33,135	32,913		
有形固定資産	26,373	27,132	26,753		
無形固定資産	203	200	217		
投資その他の資産	7,039	5,803	5,943		
資産合計	45,824	42,496	42,480		
	負債の部				
流動負債	12,486	12,990	10,369		
固定負債	8,704	5,409	6,369		
負債合計	21,189	18,399	16,738		
	純資産の部				
株主資本	22,366	22,734	24,250		
資本金	7,469	7,469	7,469		
資本剰余金	8,170	8,170	8,170		
利益剰余金	6,796	7,162	8,678		
自己株式	△ 69	△ 67	△ 68		
評価・換算差額等	2,268	1,363	1,492		
その他有価証券評価差額金	2,268	1,363	1,492		
純資産合計	24,635	24,097	25,742		
負債・純資産合計	45,824	42,496	42,480		

(注)記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

四半期損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2023年4月 1日から 2023年9月30日まで)	前第2四半期 (2022年4月 1日から (2022年9月30日まで)	前期 (2022年4月 1日から (2023年3月31日まで)
売上高	12,715	12,161	35,554
売上原価	9,411	9,067	23,222
売上総利益	3,304	3,094	12,332
販売費及び一般管理費	5,560	5,437	12,578
営業損失(△)	△ 2,256	△ 2,343	△ 246
営業外収益	94	123	216
営業外費用	19	17	49
経常損失(△)	△ 2,180	△ 2,237	△ 78
特別利益	0	0	105
特別損失	96	1	92
税引前四半期(当期)純損失(△)	△ 2,276	△ 2,238	△ 64
法人税、住民税及び事業税	13	11	24
法人税等調整額	△ 706	△ 704	△ 61
四半期(当期)純損失(△)	△ 1,584	△ 1,545	△ 28

⁽注)記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2023年4月 1日から (2023年9月30日まで)	前第2四半期 (2022年4月 1日から (2022年9月30日まで)	前期 (2022年4月 1日から (2023年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	46	△ 2,395	658
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 407	△ 274	△ 605
財務活動によるキャッシュ・フロー	646	2,543	△ 17
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0	0
現金及び現金同等物の増減額	285	△ 127	36
現金及び現金同等物の期首残高	1,218	1,182	1,182
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	1,503	1,055	1,218

(注)記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

CLOSE UP!! 中村屋

「これからのくらしに溶け込む、喜んでもらえる食を提案する」中村屋の創意工夫と挑戦をご紹介します

食生活のニーズの 多様化

共働き世帯や単身世帯の増加、高齢化の進行などにより食生活に対するニーズの多様化が進んでいます。なるべく手間や時間をかけずに食事を済ませたいという簡便へのニーズに対応し、どこよりも"おいしい"食をみなさまにお届けできるよう磨き上げを続けています。

レンジ対応で、より手軽に本格的な味を楽しめるレトルト食品

中村屋のレトルト食品は「レストランの味をご家庭で」をコンセプトに開発されています。開発に携わっているのは、新宿の本店や中村屋のレストランを経験したシェフたちです。1927(昭和2)年の喫茶部(レストラン)開設から培った調理技術をレトルトの開発にも生かしています。

レストランのレシピのままレトルト加工 (加圧・過熱・殺菌) をしても、同じ味にはなりません。 そこで、開発担当者には調理の技能・知識はもちろん、工場での量産化の技術など、幅広い知識と経験が求められます。このようなシェフの技術を生かし、レストランの味に近づけるような味作りをしています。

現在は、より簡単に電子レンジで調理できるパウチへとリニューアルを進め、ご家庭でお楽しみいただいています。





● 個包装でレンジ対応の中華まん

中村屋の中華まん(スーパー販売商品)は2021年に個包装になりました。中華まんをレンジで温める際、ラップをかける等の手間を省き、個包装のままレンジ調理ができます。レンジで温めたときに皮がよりいっとり、ふんわりするオリジナルブレンドの小麦粉を新たに開発しました。

個包装のまま温めるだけでおいしい中華まんが食べられるようになったため、忙しい平日 の朝食や、小さいお子さまひとりでもおやつなど手軽に、便利に召し上がっていただけるようになりました。

また、個包装で一つずつ持ち歩けるため、職場やキャンプ等で中華まんを楽しめるシーンが増え、SNSではオリジナルのアレンジレシピが紹介されるなどさまざまなシーンや食べ方でくらしに溶け込んでいます。

よりおいしいPOINT!

電子レンジで温めたあと "1分蒸らす"と均一に温まり、 よりおいしくなります。 ぜひお試しください!

ご案内

当社は、東京証券取引所における市場区分について、2023年10月20日より、プライム市場からスタンダード市場へと移行しました。 これに伴う株式の取引等諸手続きについては変更なく、配当・優待等の株主還元策についても継続いたします。株主の皆様におかれましては、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。





概要

創 業 1901(明治34)年12月30日 設 **立** 1923(大正12)年4月1日

箵 金 74億6.940万円 本

営業内容 各種和洋菓子・パン・その他食料品

の製造、販売ならびに飲食店の営業

従業員数 771名

(上記の他臨時従業員が期中平均484名おります。)

役員

取

代表取締役会長 鈴木 達也 常勤監査役 小田川 聡 執行役員 河野 奈美江 代表取締役兼社長執行役員 島田 裕之 監 査 役 日向 取締役兼常務執行役員 鍵川 敏彦 取締役兼執行役員 伊賀 義晃 取 役 中山 弘子

研 執行役員 弘中 雅裕 監查 役 小川 直樹 執行役員 太田 憲治 執行役員 鈴木 克司 執行役員 水野 豊司 執行役員 山本 博 執行役員 春江 達夫

(注)取締役中山弘子・藤本聡の両氏は社外取締役であります。 監査役日向研・小川直樹の両氏は社外監査役であります。

株式の状況

発行可能株式総数 19.904.400株

5.976.205株 (注)発行済株式の総数には、自己株式 発行済株式の総数 (16,413株)が含まれております。

10.349名 (注)前期末に比し1,378名減少いたしました。 株主 数

所有者別株式分布状況



大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)
中村屋取引先持株会	660
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	489
株式会社みずほ銀行	291
三井不動産株式会社	180
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	150
株式会社ニップン	130
日東富士製粉株式会社	124
株式会社三菱UFJ銀行	115
豊通食料株式会社	110
中村屋従業員持株会	101

株主メモ

7 藤木

事 業 年 度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

配当金受領株主確定日 毎年3月31日

定時株主総会 毎年6月

絀

単元株式数 100株

公告 方法 電子公告により掲載します。ただし電子公告を

行えない事中が生じたときは日本経済新聞に 掲載する方法により行います。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号

みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

	証券会社に口座を お持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引先の ・証券会社と なります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		0120-288-324 (土·日·祝日を除く9:00~17:00)
株主総会資料の電子提供 制度(書面交付請求) についてのお問合せ先		電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
お取り扱い店		みずほ信託銀行(※)

未払配当金のお支払…みずほ信託銀行(※)およびみずほ銀行 (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。

支払明細発行については、上記「特別口座の場合」のフリーダイヤルまでご連絡ください。

表紙の写真【幸せのサクサクパイ】

風味豊かなフランス産発酵バターが香るサクサクとしたパイ生地で、濃く満足感あ るフィリングを包み丁寧に焼き上げました。パイのおいしさにこだわった、洋焼菓 子シリーズです。

●本報告書の商品写真はイメージです。

株式会社 中 村屋

住 所: 東京都新宿区新宿三丁目26番13号 e-mail: webmaster@nakamuraya.co.jp

URL: https://www.nakamuraya.co.jp/

〈お問合せ先〉総務・法務部 電 話: 03-5325-2700

